

【あきたこまち、他品種とも初期生育はやや茎数不足の傾向】

1. 水稻の生育状況

田植え以降5月中～下旬が好天で推移したため、活着は良好でした。6月に入ってから低温・寡照及び強風日が続いたことで、分けつの発生が緩慢に推移し、あきたこまちや他品種とも葉齢の進展は早めではありますが**初期生育は「やや茎数不足傾向で徒長気味」**にあります。

また、葉先枯れ等により圃場の葉色が淡い様相にありますが、つぎを参考に今後の管理を心がけてください。

水稻定点調査圃の生育状況(6月8日) ※平年値は最高値と最低値を除いた過去10年の平均

品種(平均)	草丈(cm)		茎数(本/m ²)		葉齢(葉)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
あきたこまち	25.4	24.2	85	90	5.9	5.5
(慣行)	25.4		66.6		5.8	
(側条ペ-スト等)	25.4		96.4		5.9	
前年比	106 %		97 %		+0.3 葉	
平年比	105 %		94 %		+0.4 葉	
たつこもち	28.9	26.8	85	103	6.1	5.7
きぬのはだ	24.8	26.8	94	103	5.7	5.8
ときめきもち	23.2	25.3	74	94	5.9	5.5
サキホコレ	26.3	22.1	125	105	6.3	5.0

2. 今後の技術対応

1) 水管理

表層剥離の発生が多く見られる圃場については、水の入替えや浅水管理を実施し、茎数確保に努めてください。

2) 還元障害対策

還元障害(ガス害)による酸素不足で分けつの発生等が少ない圃場では、晴天日に3日～4日程度落水し、その後入水するなど改善に努めてください。

3) その他病虫害防除

現在、イネミズゾウムシによる葉の食害が見受けられます。食害が顕著に見られた場合はつぎの薬剤を散布し防除に努めてください。【トレボン粉剤 3 kg/10a、トレボン粒剤 2～3 kg/10a】

4) [いもち病対策]

補植用苗を長く圃場に置くと、いもち病の発生原因となりますので、速やかに補植を終了し、苗を処理してください。

「水稻技術情報」<https://www.ja-ogata.or.jp/farming2/>をホームページで閲覧の際は、これまで必要だったパスワード入力なしで閲覧可能になりました。

※水稻以外の技術情報は、これまで通りパスワードの入力が必要です。